

B-4 : 組織マネジメント

URAのキャリア形成 私立・国立の事例と課題

8月30日（水） 11:00-12:30 会場C（5階）

大学・研究機関によってURAをはじめとする研究支援専門職人材の職務や機能はますます多様になっています。またこれらの専門職人材の雇用任期と雇用側の体制構築にも多くの課題があると考えます。

当該セミナーでは、研究支援専門職人材としての国立→私立、私立→国立、私立→私立のキャリアパスの事例を元に、異なる機関や体制の中で個々が研究支援専門人材としてのキャリア形成のために必要なスキルや経験、能力、課題について検討します。

任期制の身分である研究支援専門人材が自らのキャリアを形成していくことに加え、それぞれの研究機関が一定期間雇用する人材をうまく活用して、組織力をあげていくことができるか、また、それにどう貢献できるか、

これまで多く実施されているスキル標準や育成方法についての議論とは別の視点で、URA個人と組織の双方が成長していくための『URA人材エコシステム』について考えたいと思います。

先進的な研究支援体制モデルを運営される立命館大学産学連携本部副本部長中谷吉彦教授を中心に、異なる組織や体制において、どのようなキャリア形成が 研究支援専門人材自身、また機関にとって重要か、参加者の皆様とのディスカッションも取り入れて行います。

オーガナイザー



石田 貴美子 : 同志社大学 研究開発推進機構
リサーチ・アドミニストレーター

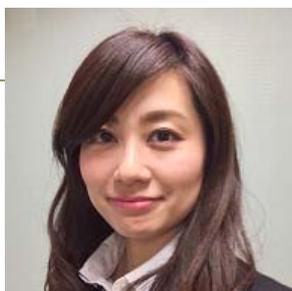
電子部品メーカー、在シンガポール大手法律事務所を経て、2006年立命館大学リサーチオフィスに勤務、国際産学連携、科研費戦略、研究機構運営を担当。2013年より同志社大学研究開発推進機構リサーチ・アドミニストレーターとして、研究力強化、科研費を含む競争的資金の獲得やプロジェクト形成を担当。URAは博士人材にしかできない職種ではないと考える一方、より高度な博士URAとの協業を活かした支援力の向上も重要だと認識しています。研究力向上を計画する私立大学等でのURA導入、定着化に貢献したいと考えています。

司会者


中谷 吉彦 : 立命館大学 産学官連携戦略本部 副本部長

民間企業で電子材料の研究開発からスタートし、研究企画、経営企画などの業務を担当して、2004年に立命館大学の研究推進部門の教員として着任しました。特に、自然科学系分野での研究政策の立案・推進などに携わっています。また、産学官連携の取組み強化のための体制・仕組みづくり、大型連携案件の推進も担当しています。これらの業務を通じて、私はURAをはじめとする研究推進を担当するスタッフの方々の果たす役割とその意義が、極めて重要で大きいものであると認識しています。このセッションでは、これらの人材が今後、幅広い分野・場でさらに活躍していただくためのキャリア形成について、いろいろな角度から議論を深めたいと思います。

講演者


服部 華代 : 京都大学医学部附属病院 臨床研究総合センター
技術移転・国際連携部 特定助教

北海道大学大学院農学研究科修了後、化粧品メーカーにて研究開発を担当。その後、2009年立命館大学リサーチオフィスに入職し、研究支援に転身。5年間のリサーチアドミニストレーター経験（工学部における公的資金獲得、プロジェクト推進、知財契約）を積み、2014年より京大病院臨床研究総合センターにて橋渡し研究支援に携わる。私立と国立の組織の違い、医療という分野の違いに戸惑いつつも、立命館大学の現場で培った経験とノウハウを最大限に活し、日本の医療に貢献できるよう日々奮闘しています。私の日々の奮闘が少しでも（特にこれから活躍される若い方への）今後のキャリア形成の参考になればと思います。


田中 有理 : 中央大学 研究推進支援本部
リサーチ・アドミニストレーター

特許事務所勤務を経て、2009年中央大学にて生命科学系のラボマネージャ、2012年九州工業大学にてURAとして勤務後、2014年より中央大学研究推進支援本部にリサーチ・アドミニストレーターとして着任。全学プロジェクト、文理融合プロジェクト企画立案、外部資金申請支援、採択後のアウトリーチ活動、科研費申請および申請に係るイベント企画などを担当中。これまでの仕事内容と今後のキャリアについて、国立大学・私立大学勤務の両方を経験した中で、自分なりのまとめができればと考えています。